

令和3年度 子育て支援推進状況報告書

(「すまいる子ども・若者プラン」進捗状況)

令和4年6月

三条市 教育委員会
子育て支援課

安心して子育てを楽しむことができ、
子ども・若者の笑顔があふれるまち

ライフステージに応じた
総合的で一貫した子育て支援

I 子育てと仕事の両立プロジェクト

〈第2期の主な取組〉

- | | |
|-----------------------|---|
| 1 多様なニーズに対応した保育環境等の充実 | 3歳未満児の保育の拡充／病児・病後児保育の充実／一時預かりの拡充／保育士確保の推進 ほか |
| 2 子どもの放課後等の居場所の確保 | 児童クラブの充実／放課後の子どもの居場所の充実 ほか |
| 3 男性の家事、子育て参加の促進 | 子育て世代に対する意識啓発の推進 ほか |
| 4 出産のために退職した女性等の再就職支援 | 他機関と連携した就職先の紹介／再就職に向けた就労相談会等の実施／再就職のためのセミナー等の実施／再就職マッチング事業 ほか |

II ハッピー子育てプロジェクト

- | | |
|------------------|---------------------------------|
| 1 親子が集える場づくり | 子育て支援センターの拡充／屋内で思い切り遊べる施設の充実 ほか |
| 2 親子で楽しめる公園の整備 | 既存公園の遊具等の整備 ほか |
| 3 子育て家庭へのサポートの充実 | 利用者支援事業の実施／産後ケア事業の実施 ほか |

III 子ども・若者の健やかな成長プロジェクト

- | | |
|-----------------------|--|
| 1 母子保健、家庭教育の充実 | 母子の歯科保健の充実／「眠育」(早寝、早起き)の啓発強化／乳幼児とのふれあい体験の充実 ほか |
| 2 子どもの発育・子育て相談の充実 | 相談事業の充実／子育てに関する情報発信の充実 ほか |
| 3 子ども・若者の社会形成、社会参加の推進 | 子ども・若者の意見表明機会の充実 ほか |

IV 子ども・若者支援プロジェクト

- | | |
|-----------------------|--|
| 1 子ども・若者総合サポートシステムの充実 | 養育支援訪問事業の充実／被虐待児童及び問題行動児童の進行管理の強化／若者への支援体制の強化 ほか |
| 2 三条っ子発達応援事業の充実 | 年中児発達参観の全市実施／発達支援に係るコーディネーターの資質の向上 ほか |

V 子ども・子育て応援社会プロジェクト

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1 子ども・子育て家庭を支えるまちづくりの充実 | 関係団体への支援の強化 ほか |
| 2 地域における安全・安心の確保 | 通学路の確認 ほか |

2 プランの進捗を表す指標

(1) プラン成果指標

	指 標	(H25実績)	H30実績	R 5 目標値
1	合計特殊出生率	(1.48)	1.43	1.58
2	子育てに不安を感じている人の割合	(70.5%)	64.4%	50%
3	子育てについての相談先を知っている割合	—	—	90%
4	子育てを負担と感じている人の割合	(38.4%)	21.2%	25%
5	子育てに幸せを感じている人の割合	(92.0%)	83.8%	99%
6	父親が家事や子育てをしていると思う人の割合	(72.8%)	64.8%	90%
7	子育てと仕事が両立できていると思う人の割合 (仕事をしていない人を除く。)	(69.4%)	74.6%	80%
8	保育が充実していると思う人の割合	(32.4%)	33.4%	70%
9	三条市が子育てしやすいまちになったと思う人の割合	(47.9%)	24.7%	70%

(2) プロジェクト成果指標

※ 各プロジェクト下の施策ごとに、次のように成果・効果の指標を設定する。

施 策		指 標	H30実績	R 5 目標値
Ⅰ 子育てと仕事の両立プロジェクト	1 多様なニーズに対応した保育環境等の充実	女性の就職率	54.0%	68.0%
		待機児童数（毎年度10月1日現在）	5人	0人
		一時預かり事業の利用者数（平日・休日）	平日 2,225人 休日 734人	平日 2,500人 休日 800人
	2 子どもの放課後等の居場所の確保	児童クラブの利用率	19.2%	25.0%
	3 男性の家事、子育て参加の促進	3か月健診のアンケート調査で、父の育児参加について「よくやっている」と答える人の割合	58.8%	80.0%
	4 出産のために退職した女性等の再就職支援	女性の就職率【再掲】	54.0%	68.0%
就労相談会等参加者数		372人	400人	

施策		指標	H30実績	R5目標値
II ハッピー子育てプロジェクト	1 親子が集える場づくり	子育て支援センター利用者数	20,871人	22,000人
		子育て拠点施設利用者数	81,678人	85,000人
	2 親子で楽しめる公園の整備	公園来訪者数(保内公園、しらさぎ森林公園、中浦ヒメサユリ森林公園、かわまち交流拠点施設)	76,650人	151,000人
	3 子育て家庭へのサポートの充実	子育て支援情報メールの登録者数	2,877人	6,000人
		子ども一人当たりの児童福祉費	504,152円	増加
		子ども一人当たりの母子保健費	27,838円	増加
III 子ども・若者の健やかな成長プロジェクト	1 母子保健、家庭教育の充実	子ども一人当たりの虫歯本数(5歳児)	0.97本	0.70本
		子ども一人当たりの母子保健費【再掲】	27,838円	増加
		睡眠時間が9時間未満の5歳児の割合	39.6%	20%
	2 子どもの発育・子育て相談の充実	子どもの発育・子育て相談の件数	401件	420件
		子育て支援情報メールの登録者数【再掲】	2,877人	6,000人
	3 子ども・若者の社会形成、社会参加の推進	不登校児童生徒の発生率の全国平均との差	小学校 +0.04% 中学校 -0.31%	小学校 -0.15% 中学校 -0.37%
勤労青少年ホーム(ソレイユ三条)35歳以下登録者数		130人	210人	
IV 子ども・若者支援プロジェクト	1 子ども・若者総合サポートシステムの充実	子ども・若者総合サポートシステム登録希望者数	87人	100人
		青少年相談件数	254件	380件
		三条地域若者サポートステーションでの進路決定割合	8.9%	10.0%
	2 三条っ子発達応援事業の充実	年中児発達参観前に特別な支援や配慮を要する子どもに気付く割合	85.2%	89.0%
V 子ども・子育て応援プロジェクト	1 子ども・子育て家庭を支えるまちづくりの推進	青少年育成市民会議小学校区・地域育成活動助成金申請件数	13件	18件
		サンキッズカード累計交付枚数	4,443枚	5,000枚
	2 地域における安全・安心の確保	安心・安全情報メールの配信登録者数	8,586人	12,000人

(1) 施策の状況

ア 多様なニーズに対応した保育環境等の充実

- 3歳未満児保育や一時預かり事業へ対応する施設整備への支援を進めるなど、多様なニーズに対応できる保育環境の枠組みは着実に整備されてきているが、それを担う保育士有資格者の人材確保が困難を極めている。
- 年度末から開始した保育士職の処遇改善内容を積極的にアピールし人材確保の誘因としていくほか、保育職場への就業意識が高まるよう保育士有資格者サークルの活動を活性化させるなどし、保育士の確保に努めていく。
- 他方、感染症禍は、度重なる保育所(園)等の休所(園)を強い、保護者の就業の安定性にも大きく影響を与えた。感染拡大が一定の収まりを見せてきているものの、引き続き、子育てと仕事の両立のため、状況を注視しつつ予防対策を継続していく。

指標の状況						第2期の主な取組項目	令和3年度の実績	令和4年度の実績
H30	R元	R2	R3	R4	目標値			
女性の就職率 54.0%	56.2%	51.1%	47.2%	%	68.0%	3歳未満児の保育の拡充	小規模保育事業所ハッピー第六保育園を認可し3歳未満児保育を拡充したほか、つくし保育園の施設整備に対して支援した。	ハッピー第七保育園の認可により3歳未満児保育の更なる拡充を図るほか、北陽保育園、石上どれみ保育園の施設整備を支援し、保育環境の更なる充実に努める。
待機児童数 5人	6人	4人	2人	人	0人	病児・病後児保育の充実	病児・病後児保育ルームなのはなのための利用制限を行ったものの、対策を施しつつ例年の半数近くまで回復した。(延べ利用者数：R元_776人、R2_176人、R3_349人)	利用しやすいサービスを目指し、病児・病後児保育ルームなのはなの利用料金体系を見直す。(これまでの「1日当たり2,000円」を「4時間まで1,000円、4時間超2,000円」に見直し)
一時預かり事業の利用者数 (平日) 2,225人 (休日) 734人	(平日) 2,370人 (休日) 805人	(平日) 2,216人 (休日) 666人	(平日) 1,373人 (休日) 558人	(平日) 人 (休日) 人	(平日) 2,500人 (休日) 800人	一時預かりの拡充	令和3年11月、つくし保育園子育て支援センター開設により、大崎地区の平日一時預かりを開始した。	引き続き一時預かり事業を実施する。
						保育士確保の推進	潜在保育士の学び直しを支援する保育士有資格者サークルからの雇用も進めたものの(令和3年度採用3人。3/31現在参加者34人)、年度途中において保育士が確保できず、待機児童が生じた。 こうした中、国の特例交付金を活用し保育士の処遇改善を開始した。	引き続き保育士就職相談会等の場を活用し、保育士有資格者との接点をより幅広く求めていくとともに、保育士有資格者サークル参加登録者の保育への就業意識が高まるよう取組を進め働きかけていく。

イ 子どもの放課後等の居場所の確保

- 引き続き、子どもたちの個のニーズに配慮しつつ放課後の預かり環境を提供していくとともに、月岡児童クラブの移転改築を進めるなどし、子どもたちの安全・安心な放課後の居場所の確保に努めていく。
- 感染症禍が続く中、児童クラブにおいては予防対策を施しつつ取組を継続できているものの、感染拡大によるクラブの利用停止なども頻発した。保育所(園)の運営と同様に、引き続き、感染状況を注視しつつ予防対策を継続していく。
- 放課後子ども教室等の取組については、感染症の拡大に加え運営体制の課題等から活動を休止せざるを得ない状況が続いている。放課後の過ごし方に関連する国制度の動きも視野に入れ、子どもたちの安全・安心な放課後の居場所の在り方について、引き続き、考えていく必要がある。

指標の状況						第2期の主な取組項目	令和3年度の取組成果	令和4年度の取組計画
H30	R元	R2	R3	R4	目標値			
児童クラブの利用率						児童クラブの充実	引き続き19クラブにおいて児童の受入れを行った(3月末登録者数991人)。また、さんさん児童クラブを増設し、子どもの状態に応じた預かり環境の充実を図った。	子どもの状態に応じた支援が図られるよう体制を維持するとともに、老朽化した月岡児童クラブの建設を行う。
19.2%	23.0%	21.5%	22.2%	%	25.0%			
放課後の子どもの居場所の充実						放課後の子どもの居場所の充実	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、放課後子ども教室を始め、子どもたちが放課後に集える場の提供を引き続き中止した。	児童クラブの利用の高まりを踏まえつつ、放課後の子どもの居場所としての放課後子ども教室の在り方を検討していく。

ウ 男性の家事、子育て参加の促進

- 男女が共に家事や子育てに携わることが自然な社会風土となるよう、中高生や大学生といった若年層の男性のマインドにも響く効果的な手法により、意識の醸成を図っていく必要がある。
- 企業への意識の啓発や喚起、男性の育児休業取得率を増加させること等により、男性の家事・育児への参画を促す。

指標の状況						第2期の主な取組項目	令和3年度の取組成果	令和4年度の取組計画
H30	R元	R2	R3	R4	目標値			
3か月健診のアンケート調査で、父の育児参加について「よくやっている」と答える人の割合						子育て世代に対する意識啓発の推進	育児休業を取得した市職員の実体験を広報等で発信し、企業や子育て世代への意識啓発を図った。 また、婚姻届の提出時に、窓口で記入型の「家事シェアリングリーフレット」を引き続き配布し、性別にとらわれない家事の関わり方について考えるきっかけとした。	引き続き、リーフレットを効果的に配布するとともに、企業や若年層の男性に対し情報発信し、意識の啓発・喚起を進めていく。
58.8%	62.1%	66.8%	68.4%	%	80.0%			

(1) 施策の状況

エ 出産のために退職した女性等の再就職支援

- 再就職を希望する女性への支援として、引き続き、各種セミナーや座談会形式の相談会を実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響や、オンライン開催といった開催方法の変更もあり、参加者数は減少した。
- 雇用に当たっては、職種や雇用条件等のミスマッチなども生じており、就労相談会やセミナーの開催などに引き続き注力していくことはもちろんのこと、事業者の雇用意識の改善にも働き掛けていく必要がある。

指標の状況						第2期の主な取組項目	令和3年度の実績	令和4年度の実績	
H30	R元	R2	R3	R4	目標値				
女性の就職率【再掲】	54.0%	56.2%	51.1%	47.2%	%	68.0%	他機関と連携した就職先の紹介	女性が応募しやすい職種（看護職員）に絞った就職ガイダンスをオンラインにより開催した（2回）。また、市の「三条おしごとナビ」を通じ就職先の紹介・周知を図った。	女性が応募しやすい職種に絞った就職ガイダンスなど、よりターゲットに響く他機関との連携を探っていく。
就労相談会等参加者数	372人	102人	31人	24人	人	400人	再就職に向けた就労相談会等の実施	子育て中の女性の再就職に向け、「ママのための就労相談支援デー」を設け終日相談会を設定したほか、座談会形式による相談の場も設けた。（5回予定したものの、開催時期が県特別警報等の時期と重なり、実績は2回実施、参加者延べ4人）	再就職を目指す子育て中の女性を対象にしたセミナーを開催するなど、再就職に対する不安解消やアドバイスを行う。新型コロナウイルス感染症の感染状況等に左右されないよう、オンライン開催の検討も行う。（年5回実施予定）
							再就職のためのセミナー等の実施	仕事と家庭生活との両立のため「働く女性のためのスキルアップセミナー」を開催した。（全2回、参加者 延べ20人）	引き続き、仕事と家庭生活との両立のため「働く女性のためのスキルアップセミナー」を開催する。（11月開催予定）
							再就職マッチング事業	事業所対象のセミナーを開催しつつ、「三条おしごとナビ」の活用によりマッチングを推進した。（人材確保セミナー開催 16事業所16人参加）	引き続き「三条おしごとナビ」を活用し、再就職希望者向けの情報を発信するほか、事業所向けのセミナーを開催する。

(2) プロジェクトの総括と評価

〈総括〉

- 仕事をしながら安心して子育てができる環境づくりの各取組については、それぞれ解決すべき課題を抱えながらも着実に進めてきたが、長引く感染症禍による影響を大きく受け、令和3年度は一時的な停滞を招いた。
- 多様なニーズに対応した保育環境の充実については、施設の整備が着実に進んでいることなど、一定の成果が上がっているが、それを担う人的資源である保育士職の不足は変わらず慢性的な課題となっている。
- これに対しては、これまで募集の周知や勧誘の場などの人材確保のための基礎的な手法に注力し進めてきたが、今後は、例えば、保育士職以外の専門職の代替的活用の検討など、既定の枠組みにこだわらない方法による人材確保についても研究していく必要がある。
- また、放課後の子どもの居場所の確保については、預かりの場である児童クラブは着実に改善・充実を図ってきているものの、放課後子ども教室は、休止せざるを得ない状況に至っている。
- 放課後の子どもたちの居場所の在り方について、様々に手を尽くしている中、現在進めている各種取組が全体としてどうあるべきか検討していく必要がある。
- 他方で、未だ続く感染症禍による、度重なる保育所(園)等の休所(園)、児童クラブの利用停止は、保護者の就業の安定性に大きく影響を与えた。感染拡大が一定の収まりを見せてきているものの、引き続き、子育てと仕事の両立のため、状況を注視しつつ予防対策を継続していく必要がある。
- これら保育や放課後の場などの子どもが過ごす環境では、皮肉にも「密」な関係性を構築していくことが肝要であり、それが子どもの健やかな成長をも左右する。
- 仕事をしながら安心して子育てができる環境づくりを進めることと併せ、まずは健やかな成長を確実に促し、かつ、子どもたちが安全に過ごせる環境を堅持できるよう、保育の場や放課後の居場所の運営方法についても、引き続き、改善を検討し実践していく。

〈評価〉

停滞	やや停滞	着実	やや推進	推進
----	------	----	------	----

(1) 施策の状況

ア 親子が集える場づくり

- 保育園整備に合わせ子育て支援センターを設置し、主に大崎地区の子育て中の親子を支援する場として供用を開始した。
- 子育て支援センター及び子育て拠点施設（すまいるランド、あそぼって）などの利用については、ここ2年は新型コロナウイルス感染症の影響を受け大幅に減少しているが、子どもたちの安全・安心な遊び場の確保のため、感染拡大の予防対策を確実に講じつつ、子育て中の親子が気軽に集い相互交流や子育ての不安や悩みを相談できる場を継続的に提供できるよう努めていく。

指標の状況						第2期の主な取組項目	令和3年度の実績	令和4年度の実績
H30	R元	R2	R3	R4	目標値			
子育て支援センター利用者数						子育て支援センターの拡充 屋内で思い切り遊べる施設の充実	令和3年11月のつくし保育園子育て支援センター開設に向け、整備事業費の支援を行った。 新型コロナウイルス感染症対策を徹底しつつ、すまいるランドやあそぼってを運営した。	感染症の拡大予防対策を確実に講じつつ、親子が共に集える場を継続的に提供できるよう努めていく。 引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、すまいるランド及びあそぼっての運営を行うほか、公共施設の開放等による子どもの遊び場を確保していく。
20,871 人	19,316 人	16,412 人	12,488 人		22,000 人			
子育て拠点施設利用者数								
81,678 人	75,022 人	38,871 人	47,256 人		85,000 人			

イ 親子で楽しめる公園の整備

- 利用者の安全・安心を基本とし、遊具等の点検や修繕を継続して実施した。
- 年次的に改修整備していく中で、しらさぎ森林公園については、老朽化による通路（木道）の修繕や遊具の更新等の機能の継続・維持に止まることなく、新たな遊具の設置に加え親子で自然を楽しめるよう季節の花を楽しめる場を整備するなど、公園の持つ特長をより引き出すことができるよう工夫し整備した。

指標の状況						第2期の主な取組項目	令和3年度の実績	令和4年度の実績
H30	R元	R2	R3	R4	目標値			
公園来訪者数						既存公園の遊具等の整備	引き続き各公園の遊具の安全点検や修繕を行ったほか、しらさぎ森林公園の遊具の更新や木道の修繕を行った。	保内公園の遊具、ベンチ等の更新などを行うとともに、これまで整備してきた公園の更なる情報発信を行う。
76,650 人	145,510 人	93,041 人	86,079 人		151,000 人			

(1) 施策の状況

ウ 子育て家庭へのサポートの充実

- 国が示した枠組みである「子育て世代包括支援センター」の機能については、すでに「子どもの育ちサポートセンター」が基本的に担っているが、子育て世代包括支援センター制度の趣旨や他自治体での同センターの運営の方法などを見据えながら、子どもの育ちサポートセンターが利用者ニーズに対しより有効に機能していけるよう必要な改善を加えていく。
- 産婦及び乳児に対し心身のケアや育児のサポート等の支援を行う産後ケア事業を開始した。
- 子育て世代の経済的負担の軽減のため、令和3年8月から、子ども医療費助成事業について助成期間を現状の「中学校卒業まで」から「高校卒業まで」に拡充した。また、妊産婦の経済的負担軽減のため、「一部負担金を除いた2分の1を助成」から「一部負担金を除いた全額を助成」に拡充する（令和4年10月施行）。

指標の状況						第2期の主な取組項目	令和3年度の実績	令和4年度の実績
H30	R元	R2	R3	R4	目標値			
子育て支援情報メールの登録者数	2,877人	3,639人	3,995人	4,427人	6,000人	利用者支援事業の実施	国の示す枠組みである子育て世代包括支援センターの機能については、当市では子どもの育ちサポートセンターがすでに担っていることから、国の趣旨も踏まえ同サポートセンターの機能を点検し、母子保健業務等を中心に、引き続き、相談支援等を実施した。	引き続き、保健師等により専門的な見地から相談支援等を実施する。
子ども一人当たりの児童福祉費(概算)	504,152円	516,690円	560,700円	569,477円	増加			
子ども一人当たりの母子保健費(概算)	27,838円	28,571円	25,789円	30,902円	増加	産後ケア事業の実施	産婦等の心身のケアや育児サポートを行う産後ケア事業について、短期入所型及び通所型の取組構成により、令和3年4月から開始したが、それぞれ利用には至らなかった。	引き続き、事業を実施するが、ケアを必要とする方々が気兼ねなくより利用しやすいものとしていくため、産科医療機関等と十分に情報交換するなどし、産後間もない産婦やこれから出産を迎える妊婦への周知に努めていく。

(2) プロジェクトの総括と評価

〈総括〉

- 「子育ては楽しいもの」「子育てを楽しむことが親と子どもの幸せにつながる」という考えの下、身近な地域で親子が集い安心して楽しめる場が持てるよう子育て支援センターの新たな整備に対し支援したほか、親子で過ごす一つ一つの場において楽しみがより大きなものとなるよう、例えば公園の改修整備に当たっては工夫を施すなどしてきた。
- しかし、長引く感染症禍では、子育て家庭にとってはそうした場へ足が向く頻度も当然に抑えられ、結果として、その施策効果も引き出しにくい状況となる。
- 感染拡大が一定の収まりを見せてきているものの、まずは利用者の心配を払拭するため、引き続き、感染予防対策を確実に実施していく。
- 加えて、子育てに悩みを抱え子育てそのものを楽しむことが困難な方々に寄り添っていくサービスの充実も肝要である。
- これまで相談支援を中心にそうした方々への支援を図ってきたが、昨年度開始した産後ケア事業の浸透を徹底していくなどし、より一層寄り添う体制を充実させていく必要がある。
- さらに、子育て世代を全体として支え、子育てに関する不安を払拭していくため、子育て世代の経済的負担の軽減を図る子ども医療費助成の対象を18歳まで引き上げたほか、今後、妊産婦医療費助成についても拡充を進めていく。

〈評価〉

停滞	やや停滞	着 実	やや推進	推 進
----	------	-----	------	-----

(1) 施策の状況

ア 母子保健、家庭教育の充実

○ 幼児期に身に付けた生活リズムは成長してからも崩れにくく、生涯にわたる生活習慣の基礎となることから「眠育」の取組対象を幼児期に拡大し注力した。令和3年度は、市内全公立保育所から実施したが、今後は全私立保育園へ拡大できるよう、取組を進めていく。

指標の状況						第2期の主な取組項目	令和3年度の実績	令和4年度の実績計画
H30	R元	R2	R3	R4	目標値			
子ども一人当たりの虫歯本数(5歳児)						母子の歯科保健の充実	保育所(園)、幼稚園、認定こども園の全施設において、フッ化物洗口を実施した。 ・実施方法 1分間ブクブクうがい(週5日) ・実施時期 年長(5歳)児：通年 年中(4歳)児：9月～3月	引き続き、保育所(園)、幼稚園、認定こども園において、フッ化物洗口を実施する。
0.97本	1.19本	0.93本	0.93本	本	0.70本			
子ども一人当たりの母子保健費【再掲】						増加	「眠育」(早寝、早起)の啓発強化 幼児期の取組の強化として、モデル地区に加え、全ての公立保育所において睡眠調査を実施した。 また、就学を見据えて生活リズムを整えていくことを目的とし、29施設の年長児保護者を対象に眠育講話を実施した。	睡眠調査の取組を更に私立保育園にも拡大し、希望のあった2園において実施する。 年長児保護者対象の眠育講話は全施設での実施を目指し、引き続き実施する。
27,838円	28,571円	25,789円	(概算) 30,902円	円				
睡眠時間が9時間未満の5歳児の割合						乳幼児とのふれあい体験の充実	市内4校(当初予定6校)の中学3年生が保育所等で幼児とのふれあい活動を実施した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため広い場所等を確保し、距離をとっての交流を中心とした。他の2校は中止とした。	乳幼児とのふれあい体験は、これから親となる若い世代が子育てに関し学習できる場であることから、感染症の影響で直接交流が難しい状況でも、ICT機器を活用するなど、より多くの学校で実施できるようにしていく。
39.6%	31.0%	24.1%	22.7%	%	20.0%			

(1) 施策の状況

イ 子どもの発育・子育て相談の充実

- 引き続き、保健師や臨床心理士、言語聴覚士といった専門家による相談を継続し、多様な子育ての悩み相談に対応していく。
- また、核家族化や関係性の希薄化の進行などの子育て世代を取り巻く環境変化から来る、求められる相談形態の変容にも目を向け、それに適う情報収集ツールを検討し活用していく必要がある。
- 子育て支援サイトは、必要な情報が必要な方への確に届く、見やすく親しみがあるものを構築する。

指標の状況						第2期の主な取組項目	令和3年度の取組成果	令和4年度の取組計画
H30	R元	R2	R3	R4	目標値			
子どもの発育・子育て相談の件数	401件	296件	302件	262件	件	420件	相談事業の充実 月1回土曜日を時間外相談日とし、平日仕事で参加が難しい保護者からの相談に対応した。 ・臨床心理士相談 51回 114件 ・言語聴覚士相談 33回 73件 また、子どもの健康や保育など、子どもに纏わる多岐にわたる悩みに気軽に相談できるサービスを提供するため、LINEによる相談対応を開始した。 ・LINE登録者数 154人	月1回の土曜日相談を継続実施するほか、保護者団体からの出張相談に積極的に対応していく。 また、LINEの運用については、より子どもに関わる様々な悩みをより気軽に相談できるものとして、引き続き、対応していくほか、登録者に有効な情報の発信ツールとしての活用にも注力していく。
子育て支援情報メールの登録者数【再掲】	2,877人	3,639人	3,995人	4,427人	人	6,000人	子育てに関する情報発信の充実 ホームページや子育て支援情報メール、広報さんじょうへの掲載に加え、新たにTwitterとnoteサイトを活用し、市内外の子育て世帯への情報発信に努めた。 また、なかなか外出できない、対面での相談に不安があるなどといった市民向けにLINEにより三条市子どもなんでも相談の受付を開始した	子育て世代に対し必要な情報が的確に届くよう、引き続き、様々なツールを活用しながら情報発信を行っていく。 また、見やすく親しみのある子育て支援サイトを構築する。

(1) 施策の状況

ウ 子ども・若者の社会形成、社会参加の推進

○ 青少年育成市民会議、青少年指導委員会、子ども会連合会などにおいては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、引き続き、各種取組を中止せざるを得ない状況にあったが、「私のメッセージ三条市小学生大会」などの意見発表の場は、感染防止の対策を講じつつ実施することができた。

こうした、子どもや若者が普段の生活体験を通じて感じたことや社会問題に対する自己の考えを表明する場は、大人が子どもや若者の意見や考えを聞き思いを受け止める大切な場であること、子どもや若者の社会参画意識を高め「三条市」への愛着と誇りを醸成するきっかけ作りとなることから、感染症対策を施しながら取組を維持していきけるよう検討していく。

指標の状況						第2期の主な取組項目	令和3年度の実績	令和4年度の実績
H30	R元	R2	R3	R4	目標値			
不登校児童生徒の発生率の全国平均との差						子ども・若者の意見表明機会の充実	青少年育成市民会議との連携による「私のメッセージ三条市小学生大会」「家族・地域のきずな」に関する標語募集」を実施し、子ども・若者が意見表明する機会を設けた。 ・第17回 私のメッセージ三条市小学生大会（11月） 発表者 市内小学生20人 ・「家族・地域のきずな」に関する標語募集（11月） 対象者 市内小中学生 応募件数 159件	新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた上で、引き続き、子ども・若者の意見表明機会を設ける。
小学校	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校			
+0.04%	-0.23%	-0.15%	%	%	-0.15%			
中学校	中学校	中学校	中学校	中学校	中学校			
-0.31%	-0.59%	-0.22%	%	%	-0.37%			
勤労青少年ホーム35歳以下登録者数								
130人	197人	224人	114人	人	210人			

(2) プロジェクトの総括と評価

〈総括〉

- 「時代を担う子ども・若者の健やかな成長」のためには、幼少期から心身の両面を支援し、又は、対策を施していく必要がある。
- 母子保健の取組では、新型コロナウイルス感染症により、実施の延期等の若干の取扱いの変更が生じたものの、各年齢層に応じた乳幼児健診を確実に実施してきた。また、保育所等のフッ化物洗口が定着したことや、引き続き「眠育」に取り組んできたことにより、子どもたちの健やかな成長を図る取組は推進されてきた。こうした取組は、一朝一夕に成果・効果を出せるものではないため、引き続き、着実に進めていく必要がある。
- 青少年の健全育成に係る関係団体においては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、多くの取組を中止せざるを得なかった。子どもや若者が普段の生活体験を通じて感じたことや社会問題に対する自己の考えを表明する場は、大人が子どもや若者の意見や考えを聞き思いを受け止める大切な場であること、子どもや若者の社会参画意識を高め「三条市」への愛着と誇りを醸成するきっかけ作りとなることから、感染症対策を施しながら取組を維持していけるよう検討する必要がある。
さらに、保護者のニーズや子ども・若者の価値観も変化している中、一つ一つの取組についてその効果を検証し必要な見直しを施していく必要がある。
また、保護者が子育て支援の施策を気軽に利活用でき支援が必要な時に適切な子育て施策を利用できるよう、活用するツールを的確に選択しつつ、効果的な情報発信に努めていく。

〈評価〉

停 滞	やや停滞	着 実	やや推進	推 進
-----	------	-----	------	-----

(1) 施策の状況

ア 子ども・若者総合サポートシステムの充実

○ 児童虐待対応においては、ノウハウ・知見が蓄積され確実に個別ケースに対応しきれていることや、発達障がい等を有する子どもたちの早期発見早期支援が確実に進んできていることなど、基本的に全体として支障なく機能している。
 しかし、システム立上げから相当の年数を経ている中、よりの確かつスムーズな支援の実施のため、取組の各所について点検し、調整を図っていく必要がある。

指標の状況						第2期の主な取組項目	令和3年度の取組成果	令和4年度の取組計画
H30	R元	R2	R3	R4	目標値			
子ども・若者総合サポートシステム登録希望者数						養育支援訪問事業の充実	医療機関や助産師等の関係機関に事業を周知し、情報提供・共有化を図りながら妊娠、出産、子育てに不安があり継続的な支援を必要とする人に対し支援を行った。 ・訪問実人数4人 延べ26人	引き続き、養育支援訪問事業を実施するとともに、関連事業である産後ケア事業開始後の実態を把握しながら、家族の支援が得られない等の妊産婦に対し、家事支援の実施に向けた検討を進める。
87人	85人	83人	87人	人	100人			
青少年相談件数								
254件	311件	310件	390件	件	380件			
三条地域若者サポートステーションでの進路決定割合						若者への支援体制の強化	青少年相談業務をアウトリーチ機能を有する民間団体（ささえあいコミュニティ生活協同組合新潟）に引き続き委託し、団体が運営する三条地域若者サポートステーションと連携して若者支援の相談体制の強化を図った。 ・相談件数 390件	子ども・若者総合サポートシステムの若者支援部会の登録者情報を部内で情報共有し支援内容を確認し合い、必要に応じて支援を講じるとともに、引き続き、青少年相談業務において訪問、来所、電話など、ニーズに応じた相談対応を進めていく。
8.9%	9.1%	8.6%	9.9%	%	10.0%			

イ 三条っ子発達応援事業の充実

- 「気付き事業」の中核となる「年中児発達参観」は市内保育所等においてほぼ定着し、早期から子どもの育ちや個性に合わせた保育・教育の実施に効果を上げている。
- これに加え、各保育所等に配置している「発達支援コーディネーター」による事前の気付き件数も年々増加しており、参観前からのより早期に必要な支援につなげていくことにおいても着実な成果を上げている。
- 今後も、発達支援コーディネーターの更なるスキルの向上を図りつつ、引き続き、個に応じた具体的な支援への確につないでいく。

指標の状況						第2期の主な取組項目	令和3年度の実績	令和4年度の実績
H30	R元	R2	R3	R4	目標値			
年中児発達参観前に特別な支援や配慮を要する子どもに気付く割合						年中児発達参観の全市実施	子どもの育ちや個性に早期に気づくため「年中児発達参観」を31施設で実施し、必要な支援に繋げた。 ・公立保育所 9施設 ・私立保育園 16施設 ・私立幼稚園 1施設 ・認定こども園 5施設 ・対象児童 639人(624人参加) ・延べ実施回数 57回	引き続き、年中児発達参観を着実に実施する。
85.2%	82.4%	83.9%	87.2%	%	89.0%	発達支援に係るコーディネーターの資質の向上	発達支援コーディネーター研修を実施し適切な指導体制の整備に努めた。 ・受講施設 21施設 ・基礎編・応用編研修(25人) ※ 基礎編・応用編とスキルアップ編とで隔年実施	障がいや発達の遅れのある子どもの個々の状態に配慮した支援を行うため、引き続き、発達支援コーディネーター研修を実施し、資質の向上を図る。

(2) プロジェクトの総括と評価

〈総括〉

- 少子化、核家族化の進行、地域のつながりの希薄化の進行、新型コロナウイルスによる外出控え等による子育ての孤立化、保護者の精神の未熟さなどにより児童虐待のケースが年々発生しやすい環境となっている中であっても、「子ども・若者総合サポートシステム」についてはノウハウ・知見が蓄積され、確実に個別ケースに対応している。
しかし、システム立上げから相当の年数を経ている中、例えば、各部会において本来求めた役割が全うできているか、当初想定した連携は具体的に図られているかなど、取組の各所について点検し必要な改善を施していく必要がある。
- また、発達障がい等を有する子どもたちの早期発見、早期支援が確実に進んできていることなど、基本的に全体として支障なく機能している。引き続き、発達支援コーディネーターの更なるスキルの向上を図っていく。

〈評価〉

停 滞	やや停滞	着 実	やや推進	推 進
-----	------	-----	------	-----

(1) 施策の状況

ア 子ども・子育て家庭を支えるまちづくりの推進

- 青少年育成市民会議、青少年指導委員会、子ども会連合会など、地域の各種団体においては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため多くの取組を中止せざるを得なかった。地域ぐるみで子育て家庭を応援しようという機運の醸成を図り子育て家庭に優しいまちづくりを追求していく中で、活動が停滞しないよう実施に向けた支援を行っていく必要がある。
- 18歳未満の子どもを3人以上養育している保護者等に交付している「サンキッズカード」は、地域の事業所の賛同・協力を得つつ広く浸透しているが、取組開始から相当の年数が経過してきている中、子育て世代の生活態様等の現状を分析しつつその役割の妥当性も検証していく必要がある。

指標の状況						第2期の主な取組項目	令和3年度の実績	令和4年度の実績	
H30	R元	R2	R3	R4	目標値				
青少年育成市民会議小学校区・地域育成活動助成金申請件数	13件	14件	26件	27件	件	18件	関係団体への支援の強化	令和3年度の実績 青少年育成関係団体の事務局業務においては、団体ごとの青少年健全育成に対する方針と、市の取組の方向性について擦り合わせをしながら支援を進めた。	令和4年度の実績 新型コロナウイルス感染症による各種団体活動への影響は大きいものの、引き続き、各団体が青少年健全育成の取組を進められるよう支援していく。
サンキッズカード累計交付枚数	4,443枚	4,725枚	5,051枚	5,358枚	枚	5,000枚			

イ 地域における安全・安心の確保

- 道路事業関係部局等による「通学路安全推進会議」において各学校からの道路環境の改善要望を協議し、子どもの通学環境の改善について可能な限り対応を図った。引き続き、連携しつつ通学路の安全確保を図っていく。
- 依然として不審者に関する通報は絶えない状況にあり、引き続き、安心・安全情報メール等により注意喚起をしていくことはもちろん、徹底して巡回を実施していく必要がある。（安心・安全情報メールによる防犯情報配信件数 R3：37件）

指標の状況						第2期の主な取組項目	令和3年度の実績	令和4年度の実績	
H30	R元	R2	R3	R4	目標値				
安心・安全情報メールの配信登録者数	8,586人	9,571人	11,151人	12,794人	人	12,000人	通学路の確認	関係機関による通学路安全推進会議において各学校からの通学路改善要望を協議し対応を図った。	引き続き、通学路安全推進会議により、各学校からの要望を踏まえ、通学路の改善を図る。

(2) プロジェクトの総括と評価

〈総括〉

- 子ども・若者を取り巻く地域社会は、彼らが健やかに成長することができる活力あるものでなければならぬ。
- 地域の安全・安心の確保のため、登下校時のスクールバスの運行、通学路安全推進会議の開催による通学路の改善等を進めることで、子どもの安全・安心の確保を進めてきた。地域と学校が連携して子どもたちを守る取組の重要度がますます高まってきているため、自治会やPTA等による登下校時の見守りや青少年指導委員による巡回等を引き続き進めていく必要がある。
- 青少年育成市民会議、青少年指導委員会、子ども会連合会などの各種関係団体においては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため多くの取組を中止せざるを得なかったが、感染症対策を工夫しながら取組の維持を検討していく必要がある。

〈評価〉

停 滞	やや停滞	着 実	やや推進	推 進
-----	------	-----	------	-----

子育てしやすいまちづくりは、「安心して子育てを楽しみ、次代を担うすべての子どもたちが心身ともに健やかに育つこと」を目指し、子どもの育成環境を様々な側面から調べていくことにある。

令和3年度においては、3歳未満児の保育環境の整備や新たな子育て支援センターの整備等に対し支援した。また、産婦等の心身のケアや育児サポートを行う産後ケア事業を開始するなど、安心して子育てに取り組んでいける環境づくりに注力するとともに、LINEを活用しより気軽に子育てに関する悩みを相談できる体制を創設するなど、子どもの健やかな育ちを図る体制を確実に構築してきた。

総じて、子育てを楽しみ安心して子育てを行っていくための基盤づくりは着実に推進してきた。

また他方で、昨年度は、子ども医療費助成の対象を18歳まで引き上げたほか、妊産婦医療費の助成についても拡充の検討を進め、また、不妊で悩む人が経済的な理由で治療を諦めることがないように不妊治療費の助成を検討するなど、個々の子育て家庭の経済的負担の軽減にも注力した。

これまでは、どちらかと言えば、子育てと仕事が両立できる環境の整備や子どもの育ちに関する困り感への対応体制の整備など、個々の子育て家庭では調べられない、行政が担うべき基盤づくり・環境づくりに主眼を置き、言わば、将来にわたる持続可能な子育て環境を構築していくための取組に注力してきた。

今後は、こうした、子育てを支援する基盤づくり・環境づくりに加え、経済的支援のような、今まさに子育てに取り組んでいる個々の子育て家庭のニーズに対しても一層手厚く取組を進めていくことで、子育てしやすいまちづくりを更に確かなものとしていく。

経済的な支援は実施すれば歓迎され、投資した資源に応じ直ちに効果が生まれる。

一方で、個々の子育て家庭では整えられない基盤づくり・環境づくりを行う子育て支援行政は、十年一日のごとく同じ考え方・手法で取組を実施していても当然に同じ効果が得られるとは限らず、その時々の子育て世代のニーズを敏感に捉え、柔軟に変化させていかなければならないものである。

このことから、施策の推進に当たっては、改めてそもそもの各取組の目的・趣旨に立ち返るとともに、これまでも増して子育て世代や子どもたち自身の目線を意識し、必要な改善を加え進めていく。